

2年 総合的な学習の時間 伝統をつなぐ本陣まつり

1 単元構想文

単元目標

- ・二川宿本陣まつりについて追究していく中で、まつりのためのさまざまな取り組みや、かかわる人々の努力や工夫、強い思いがあることを理解することができる (知識・技能)
- ・中止になってしまった二川宿本陣まつりのために何ができるかという問題を見だし、解決に向けて追究していくとともに、地域社会の一員としての考えを深め、解決策を提案することができる (思考・判断・表現)
- ・二川宿本陣まつりの存続のために自分たちにできることを企画し、実行することを通して、積極的に社会に参画しようとする (主体的に学習に取り組む態度)

単元について (下線: 主なてで)

本学級の生徒は、自分で設定したテーマに対して意欲的に追究することができる。1年生「二川の宝発見」では、地域の人・もの・ことのうち、自分の興味あるものについてテーマを決め、追究することができた。また、同時に地域のよさを大切にしていきたいという思いをもつことができた。その経験を生かし、前単元「働くことってどういうこと」では、地域で働く人の思いや、やりがいについて追究することができた。しかし、地域の課題に向き合うという面では、解決に向けて動き出す経験が少ないのが現状である。本単元は、地域の課題解決に向けて自分たちにできることを追究し、仲間とかかわりながらよりよい方法を考え、実行していくことを目指す。そうすることで、生徒がこれからの学校行事や学校生活の中で地域に目を向け、社会に参画しようとする動きやすくなるように考えた。本陣まつりは、二川を盛り上げようと地域の人々が始め、毎年11月に行われている行事である。本校からは2年生が参加し、茶屋でだんごを売ったり、大名行列に参加したりと、地域に参加していく場となっている。一方で、実行委員会を中心になっている方の高齢化により、後継者が不足しているという課題がある。更に、昨今のコロナウイルス問題により、2年連続で本陣まつりが中止になり、後継者問題に拍車がかかり、まつり自体の存在が危ぶまれている。地域のまつりがなくなってしまうかもしれないという問題を解決するための追究活動は、生徒が地域の課題を自分事として捉え、考えを深めるのに最適な教材といえる。生徒が伝統を引き継ぐ一員となったという思いをもてるように、自分たちでよりよい本陣まつりを企画し、運営する場を設定していきたい。

見いだす段階では、今年度の本陣まつりが中止になってしまったことを紹介し、それぞれの思いを話す場を設定する。生徒からは「大名行列をやりたい」「参加したかったけど、コロナで仕方がない」などさまざまな思いが語られる。そこで、本陣まつり実行委員会の熊谷さんの思いを聴く。熊谷さんからは、本陣まつりによって二川の町に活気が溢れ、中学生がかかわっていることで更に盛り上がっている一方で、まつりは続いているが、後継者が不足していることなどが語られる。また、中学生が地域のPR動画を作成した記事を紹介する。まつりがなくなってしまうことを心配している熊谷さんの思いに触れた生徒たちは、「中止になってしまった本陣まつりのために、私たちに何かできないか」という思いをもち、追究を始める。解き明かす段階では、生徒は「PR動画を作って宣伝したい」「自分たちでミニ大名行列をやりたい」と自分たちにできそうなことを提案していく。その中で、中学生が実際にまつりでやっている奴踊りなどを体験したいと考えるようになる。そこで、実際に奴踊りなどを体験する場を設定する。生徒は体験していく中で、まつりにかかわる人々の努力や思いに触れ、今年は自分たちの手で本陣まつりを引き継ぎたいと強く思うようになる。体験したことを生かして、自分たちの本陣まつりの計画を立て、準備を進めていく。ある程度準備が整った段階で中間報告会を行い、他学級に成果を見てもらう場を設定する。その後の話し合いでは、他学級のアドバイスをもとに、見てもらう人に伝わるように真剣にやりたいと考えるだろう。更に、学級でリハーサルをする場を設けるとともに、リハーサルの様子を撮影しておき、視聴する場を設ける。生徒は中間報告会の反省をもとに真剣にできているかどうか改善点を話し合う。話し合いでは「踊りがそろっているから見ている人も楽しんでもらえそう」「アナウンスに今まで学習してきた思いを入れたらどうか」といった改善点が語られる。そこで教師は、リハーサルを見た熊谷さんの感想を紹介する。熊谷さんからは、中学生が伝統を引き継いでくれていることに喜びを感じていることが話される。熊谷さんの思いを受け、生徒は、内容とともに気持ちや取り組む姿勢の面でよりよいものを目指そうと考えるようになる。動き出す段階では、実際に自分たちで企画した本陣まつりを実践する場を設ける。実行委員会のかたをはじめ、見に来てくれた人から拍手をもらった生徒は、地域の伝統を引き継ぎ、まわりに伝えていこうとする。そして、今後の学校行事や学校生活の中で、地域や社会に目を向け、積極的に社会に参画しようとする意欲を高めていく。

2 単元構想図

単元前の生徒の姿

自分なりの課題を立てて調べたり、調べたことをまとめたりすることはできるが、協働的に学習に取り組み、社会に参画しようとする経験が少ない。社会科の授業で本陣の歴史的価値を学んでいるが、本陣まつりは、地域の行事だからという受け身の参加となっている。

避	生徒の思い・考え	力を高めるためので
見 い だ す 段 階	<p>本陣まつりが中止になってしまったよ ① A</p> <p>・行事の一つがなくなってしまって ・コロナ禍でさまざまなことが中止に寂しいし、残念だ になっているから、仕方ない</p> <p>・残念だけど、仕方がない部分もある。地元の人はどう思っているのか</p>	<p>A：(浸り場：問いを生む力) 本陣まつりに対する関心を高めるために、二川本陣まつりが中止になったことを紹介し、それぞれの思いを話す場を設定する</p> <p>B：(着火：問いを生む力) 本陣まつりの大切さに気づけるように、本陣まつり実行委員会の「奴の会」の熊谷さんの「中学生にやってほしかった」という思いを聴く</p> <p>C：(着火：問いを生む力) 中止になってしまった本陣まつりのために何かできないかという思いをもてるように、中学生が地域のPR動画を作成したという記事を紹介する</p>
	<p>本陣まつり実行委員会、奴の会の熊谷さんに話を聞いてみよう ②③ BC</p> <p>・実行委員会のかたは、東海道を練り歩 ・熊谷さんたちは、後継者がいないうけないからやむを得ず中止を決定して えに、コロナで中止になることで更いて、とても残念がっている になくならないかと心配している</p> <p>・地域の行事に中学生の力が加わって今まで本陣まつりは盛り上がっていたんだね。今年は私たちに何かできることがないのか</p>	
解 き 明 か す 段 階	<p>【問題】中止になってしまった本陣まつりのために、私たちに何かできないか ④</p> <p>・ポスターで本陣まつりを ・小学校の時やっていたこ ・本陣まつりの奴踊り宣伝するのはどうか とを宣伝したらどうか などをできないか</p> <p>・宣伝もいいけど、やっぱり自分たちで実際に本陣まつりをやりたい</p>	<p>D：(浸り場：考えを深める力) 自分たちにできそうなことを追究できるように、一昨年の本陣まつりでやっていることを体験する場を設ける</p> <p>E：(浸り場：考えを深める力) よりよい本陣まつりを創りあげるために必要なことに迫れるように、中間報告会を行い、他学級からアドバイスをもらう場や、学級でリハーサルを行い、その様子を視聴する場を設定する</p> <p>F：(着火：考えを深める力) 自分たちが伝統を引き継いでいくという考えをもてるように、リハーサルを見た熊谷さんの「伝統を引き継いでくれているようでうれしい」という思いを紹介する</p>
	<p>今年は私たちの手で本陣まつりを引き継ぎたいな ⑤⑥⑦⑧⑨⑩ DE</p> <p>・本陣まつりの進行や紹 ・小学校でやっていた手踊 ・熊谷さんたちに奴踊りを紹介するアナウンスの役 りを覚えているから、学 を教えてもらえたよ。がやりたい 級の仲間とやりたい 披露できそうだ</p> <p>・よいものができあがってきたね。仲間や地域の人に見てもらいたい</p> <p>・ふざけてやっている人が ・やってみると上手いか ・踊りや演奏は何とないから、もっと真剣に ないところがあるから、 くできているね。もやった方がいい 改善したい っとよくなるか</p>	
動 き だ す 段 階	<p>私たちの本陣まつりはどうしたらよくなるだろう ⑪ F</p> <p>・受け継ぎ手不足解消のため・動きがわかりにくいとこ ・本陣が残っているこに、伝統を受け継ぐ気持ち ろがあるから、お互いに とを誇りに思っでやったらどうか 確認したほうがいい ったらどうか</p> <p>・伝統を引き継ぐ気持ちをもつことで、私たちの本陣まつりを成功させたい</p>	<p>G：(浸り場：学びを行動に移す力) 積極的に地域社会に参画できるように、自分たちで企画した本陣まつりを実践する場を設ける</p>
	<p>実行委員会のかたを呼んで、私たちの本陣まつりを見てもらおう ⑫⑬ G</p> <p>・本陣まつりがこれからも盛り上 ・見に来てくれた人が笑顔だったか がってほしいという思いが伝わ ら、一生懸命やってよかった。みんなのできることを引き継いでいけば、実行委員会のかたも喜んでくれ</p>	

未来を創造しようとする動きだす生徒の姿

自分たちで企画した本陣まつりを実践した生徒たちは、これからの学校行事や学校生活の中で地域に目を向け、積極的に社会に参画しようとする。

3 見いだす段階のてだて(浸り場・着火)と生徒 a の問題意識の高まりについて

単元前の生徒 a の姿

- ・社会科「江戸幕府の支配の仕組み」の学習を通して、二川宿本陣のもった幕府の要衝としての歴史的価値を理解するとともに、本陣を大切にす地域の人々の思いを考えることができた
- ・地域の問題を自分事として捉え、解決していこうとする経験が少ない

単元の導入として、2年前の本陣まつりの様子を映像で視聴する場を設けた。生徒たちは「歩くのが辛かった」「とても緊張した」と感想を述べた。本陣まつりに触れた生徒たちに、今年度の本陣まつりが中止になったという新聞記事を提示した(てだてA:浸り場)。生徒 a は振り返りに「とても貴重な経験だった」「またどこかで参加したい」と記述していた。本陣まつりが中止になったことをどこか他人事と捉えている生徒たちに、本陣まつり実行委員会、奴の会の熊谷さんの思いを聞く場を設けた(てだてB:着火)。生徒 a は振り返りに「本陣まつりへの熱量が感じられて、来年あればよいし、参加もしたいなと思いました」と記述しており、前向きな気持ちが見られるものの、自ら動きだそうとする姿はみられなかった。そこで、自分たちにも何かできるのではないかと考えられるように、岩手県南三陸町の中学生が地域の商店街の活性化のためにPR動画を作ったという映像を視聴した(てだてC:着火)。生徒 a は振り返りに「自分たちも、本陣まつりができなくても、二川のことをPRできたらいいな」と思った」と記述しており、自分たちに何かできないかという問題意識を高めていった。

4 解き明かす段階の2つのてだて(浸り場・着火)の検証

(1) 浸り場のてだてについて

見いだす段階での生徒 a の姿

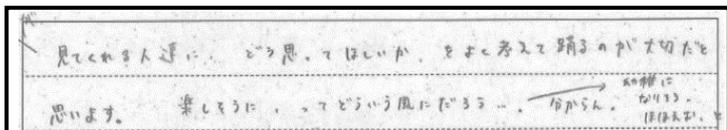
- ・本陣まつりが中止になってしまったことについては「やりたかったけど、仕方がない」と思っている
- ・「本陣まつりができなくても、二川のことをPRできたらいいな」という思いをもち始めている

てだてD・E(浸り場:考えを深める力)

- ・自分たちにできそうなことを追究できるように、一昨年の本陣まつりで行ったことを体験する場を設ける
- ・よりよい本陣まつりを創り上げるために必要なことは何かに迫れるように、中間報告会を行い、他学級からアドバイスをもらう場や、学級でリハーサルを行い、その様子を視聴する場を設定する

本陣まつりができなくても、二川のことをPRできたらいいな」という思いをもとに、第4時は何かできることはないか話し合った。やりたいことはたくさん挙がったが、生徒 a の「若い世代に知ってもらうことが大切」という意見を中心に、何か行動に移したいという思いが高まった。そこで、教師は「ミニ大名行列」を関係者の方をお願いしたことを伝えると、生徒たちは喜び、歓声が上がった。コロナ禍の中、できることが限られたため、「手踊り」と「奴踊り」を「ミニ大名行列」として披露することとなった。そこで第5時と第6時はゲストティーチャーから女子は手踊り、男子は奴踊りを教えてもらった(てだてD:浸り場)。生徒 a は振り返りに、「細かい軸足を忘れてしまっていたので大変でした」「本番までに自主練習をして、完璧に踊れるようにしたい」と記述していた。この段階では、手踊りに参加することに責任感を感じているというよりも、細かい動きや表情といった形式に目が向いていることがわかる。

第7時は今まで体験したことを「中間報告会」と称し、他クラスの仲間に発表する場とした(てだてE:浸り場)。生徒 a は振り返りに「練習の成果が出せてよかった」と記述しており、教えてもらった踊りを踊りきったことに安心していたが、見に来る人に地域の人々の思いを伝えるために踊っているという考えには至っていなかった。そこで第8時は中間報告会を振り返って、踊りの改善点を学級で話し合った。「魅力が伝わるように」「見に来る人に楽しんでもらえるように」という他の生徒の意見に触れた生徒 a の振り返りからは、「見てくれる人たちにどう思ってもらいたいか、をよく考えて踊るのが大切だと思います」【資料1】という記述があった。中間報告会の後に他クラスからのアドバイスを聞くことで、見に来る人に楽しんでもらいたいという思いをもつことができた。生徒が自分たちのミニ大名行列をよりよくしていくために必要なことを考えることができたことから、てだてD・Eが有効であり、考えを深める力の高まりが感じられた。



【資料1】第8時の生徒 a の振り返り

(2) 着火のてだてについて

教材に浸った生徒 a の姿

- ・「私たちに何ができるか」という問いに対して、「ミニ本陣まつり(大名行列)をできるところまでがんばっていきたい」という思いをもち、仲間のアドバイスを受けて、「見に来る人たちにどう思っ
てほしいか、をよく考えて踊るのが大切だ」と思っている

てだて F (着火:考えを深める力)

- ・自分たちが伝統を引き継いでいくという考えをもてるように、リハーサルを見た熊谷さんの「伝統を引き継いでくれているようでうれしい」という思いを紹介する

第 11 時では、地域の人々の思いが伝わる本陣まつりになっているか確認するために、リハーサルの録画を見て、ミニ大名行列の改善点を話し合った。録画を見たときには、「思っていたよりも揃っていない」「女子は揃っているけど、細かいところまではまだ微妙。男子はよくなっているけど、やっぱりまだ揃っていない」と「揃える」ことに目が向いていた。そこで、伝統や文化を引き継ぐという価値に迫るため、リハーサルを見た熊谷さんの「伝統や文化を引き継いでくれてありがたい」という思いを動画で紹介した(てだて F:着火)。更に、教師が『伝統を引き継ぐってどういうことなのか』と問いかけると、「ずっと前からまつりにかかわってきている人の思いを大切にする」「二川の魅力やよさを知ってもらおう」という地域の人々の思いに迫る考えが出た。生徒 a は

「後継者がいないっていう話をしていたので、私たちがミニ大名行列をすることで、次の代に渡していくこと」【資料 2】と述べた。生徒 a の振り返りには「どんな本陣まつりにしたいか」ということについて、「伝統を引き継ぐことができる本陣まつりにしたい」と記述されていた。【資料 3】この

ように、熊谷さんの思いを聞くことで、伝統や文化を引き継ぎ、本陣まつりを小学生など次の代に伝えていきたい、これからも本陣まつりを残したいという思いを高めることにつながったことから、てだて F は有効であり、考えを深める力が高まったと考えられる。

5 動きだす段階のてだて(浸り場)と未来を創造しようと動きだす生徒の姿について

単元の終末に、二川宿本陣まつり「ミニ大名行列」と称し、地域に向けて発表する場を設けた(てだて G:浸り場)。ミニ大名行列は、多くの保護者や地域のかたが参観に訪れるもの【資料 4】となり、「みなさんが本陣まつりをやりたいと言ってくれてとてもうれしかった」という実行委員会の長谷川さんの言葉に、生徒たちは「地域のためにミニ大名行列ができてよかった」と喜んだ表情で語っていた。

ミニ大名行列の振り返りに、生徒 a は、「本陣まつりが続いてほしいと思うので、二川のよいところ、魅力をみんなに知ってもらって私たちに何ができるか、継続して考えていきたい」と書いた。この言葉から、生徒 a が地域の人々の思いや願いに共感し、伝統や文化を引き継ぎ、地域のために動きだそうという意欲を高めたことがわかる。

未来を創造しようと動きだす生徒 a の姿

- ・「本陣まつりが続いてほしいと思うので、二川のよいところ、魅力をみんなに知ってもらって私たちに何ができるか、継続して考えていきたい」という地域の一員としての自覚を高めた

教師：リハーサルを見て、思いの伝わる本陣まつりになっているだろうか

生徒 b：なっていない。思っていたよりも揃っていない

生徒 c：女子は動きが揃っているけど細かいところまでは微妙

男子もよくなっているけど、やっぱりまだ揃っていない

生徒 a：お客さんが見ていて不安になる

教師：思いを伝えるって、何を伝えたいのかな

生徒 d：揃っていると迫力がある

生徒 e：実行委員会のかたの思いを伝えたい

生徒 a：二川中の代表としての姿

教師：今、eさんが実行委員会のかたの思いって言ってたけど、熊谷さんはどう思ってるかな。実は見てもらっています。そしてメッセージをもらっています。(ビデオメッセージを流す)

教師：熊谷さん、「伝統」って言ってたけど、伝統を引き継ぐってどういうことなのか

生徒 f：ずっと前からかかわってきている人の思いを大切に

生徒 b：いろいろな人に二川の魅力やよさを知ってもらおう

生徒 a：後継者がいないっていう話をしていたので、私たちがミニ大名行列をすることで、次の代に渡していくこと

生徒 g：若い人たちが本陣まつりに参加してもらおう

生徒 a：いろいろな人と盛り上がった方が楽しい

【資料 2】「見に来る人に思いの伝わる本陣まつりになっているだろうか」についての話し合い(第 11 時)

「伝統を引き継ぐ」ことができる本陣まつりにしたいです。今、コロナ禍で
流れてしまいがちなメンタルを、私たちの本陣まつりで明るく、町に負けない

【資料 3】第 11 時の生徒 a の振り返り



【資料 4】ミニ大名行列の新聞